

東濃農林事務所の普及活動状況

令和5年6月

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■高品質・多収米 にじのきらめきの取組拡大に向けて

管内では、近年、地球温暖化等の影響もあり、特に夏場の気温が高くなる地域を中心に米（コシヒカリ等）の生産量や品質の低下が顕著になっている。このため、昨年度からＪＡとうとと連携し、コシヒカリに近い作型で生産量や品質向上が期待できる品種「にじのきらめき」について管内各地の実証ほで調査を実施しており、結果も良好である。

これを受け、今後の同品種の栽培面積拡大を目指し、6/5には、多治見市、瑞浪市2か所の実証ほ場において、営農組織や中心経営体を対象とした現地研修会を開催した。20名ほどの参加があり、品種導入の背景や特性、新たに作成した栽培暦の説明などを行ったが、参加者の関心が高かったことから、次年度の導入拡大に向け、さらに研修会での検討を重ねていく予定である。



【現地研修会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■有機農業 有機栽培モデル実証ほを設置

地域の有機農業推進に係る課題整理とその解決策を検討するため、関係機関による有機農業推進プロジェクトチームを設置している。

昨年度に引き続き、瑞浪市日吉町において水稻の有機栽培モデル実証ほを設置し、6/7に移植作業が行われた。6筆ある実証ほでは、米ぬかペレット散布による抑草効果と穂肥施用による収量や食味向上効果について検討することとしている。

6/27には、県関係者参集のもと、同実証ほにて水稻除草機の実演会を開催し、除草機の駆動状況や除草効果、水稻苗への影響等について確認した。

水稻有機栽培は雑草対策以外にも、病虫害対策や収量確保等の課題があるため、一つずつ課題解決を行い、栽培技術の確立を目指していく。



【水稻除草機実演会の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■飼料用稲 WＣＳ供給に向けての契約を締結

6/15に瑞浪市の酪農経営者事務所において、農業経営課、県畜産協会立会のもと、WＣＳ供給にかかる契約締結が行われた。

令和5年度から新規就農者による新たなWＣＳ用稲の栽培が多治見市内で始まっており、実証ほを設置し技術支援を行っている。

今回、購入価格や運搬費、運搬方法のほか収穫時期、雑草混入にかかる品質条件などを明確にした。

今後、WＣＳ用稲の適期収穫や生産物の品質分析などを支援していく。



【供給契約の締結】